

令和3年6月28日

令和2年度(2020年度) 学校関係者評価報告書

学校法人伊藤学園
秋田情報ビジネス専門学校
秋田社会福祉専門学校
学校関係者評価委員会

令和2年度学校関係者評価について、下記の通り評価結果を報告します。

記

1. 日時 令和3年6月26日(土) 13時30分～15時00分
2. 場所 秋田情報ビジネス専門学校 北1-1教室
3. 出席者 [委員5名]
税理士法人三浦相原事務所 事務長 小助川 寛氏
障害者支援施設雄高園 介護係長 石黒 郁子氏
わんわんサロン わんまる。 オーナー 工藤 明美氏
元秋田県中小企業団体中央会 専務理事 関 俊昭氏
クロスウィルメディカル(株)秋田支店 マネージャー 石黒 龍太氏
[学校側4名]
校長 三浦 順治
秋田社会福祉専門学校 教務 工藤 敦
秋田情報ビジネス専門学校 栗山 典子
秋田情報ビジネス専門学校 山形 友子
4. 実施方法 令和2年度自己評価報告書を基に、基準項目ごとに説明と取り組みを聞き評価を行った(自己評価報告書等は事前に各委員送付済み)。
さらに、「業界動向」についても時間が許す限り、意見を伺った。

学校関係者評価委員による評価シート

評価項目	評価	評価項目	評価
(1)教育理念・目標	4	(6)教育環境	3
(2)学校運営	3	(7)学生の受入れ募集	4
(3)教育活動	3	(8)法令等の遵守	4
(4)学修成果	4	(9)その他	4
(5)学生支援	3		

・適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1

《各評価項目について》

1 教育理念・目標

専門学校を取り巻く社会環境は急速に変化している中で、教職員一人ひとりがしっかりとした問題意識を持ち、また情報収集に努め、社会に貢献できる人材の養成を目指してほしい。今後さらに、より開かれた学校の運営を期待する。

2 学校運営

・適切に運営しているが、部門間のデータを共有するなど、さらなる業務の効率化を検討する。

3 教育活動

・新型コロナウイルス感染症の影響で、令和2年度の入学式や並びに学園祭の中止など多数の行事や実習も中止となり代替への対応を行う等、諸活動が制限された一年だった。その様な状況の中でも、学生の安全を第一に感染対策を行いながら一定の教育効果はあったと判断できる。

4 学修成果

・就職については、秋田社会福祉専門学校においては100%だった。
・秋田情報ビジネス専門学校では、令和2年度の卒業生は、昨年3月頃、新型コロナウイルス感染症の影響で県外との往来が断たれ、Web説明会やオンライン面接といったこれまではなかった就職活動となったが、幸い、本校の学生が志望する業種の求人は若干の減少と遅れがあったものの、卒業生における就職希望者の就職率は97.9%。一部の科で100%を達成できていない。卒業後も就職未定者にはサポートをおこなっている。
・今後は、不安要素がある学生に対しては、早い段階から保護者と学校との連携を強化し、就職率向上につなげていく考えである。
・資格取得については、コロナ禍の状況で資格試験が中止や延期になり、授業スケジュールに工夫が必要となった。また、学生のモチベーション維持に配慮が必要な状況であった。この様な状況下で、例年より資格取得率は低下したが止むを得ない。教育はしっかりと行われていると判断する。

5 学生支援

・修学支援新制度の機関要件の確認を受け、給付型奨学金、授業料減免制度の対象校として継続認定を受けた。利用者も増えている。
・学生が相談しやすい環境づくりがますます必要である。
・卒業生の声を支援体制に反映できるようにしてほしい。

6 教育環境

・施設・設備のさらなる充実を図り、学生生活環境の向上を図ってほしい。

7 学生の受入れ募集

・秋田情報ビジネス専門学校においては、昨年度の入学生より情報システム科の入学者を筆頭にその他の科も増加した。コロナ禍の影響で、地元志向が追い風になり、県外進学からの進路変更も増加の一因となったようである。
・秋田社会福祉専門学校においては、2022年度募集での学科改編が行われる。改めて学校の存在意義を問われる部分でもあると思われるので、引き続き、募集活動に努力してほしい。

8 法令等の遵守

・特に問題ないと判断した。

9 その他

・財務に関して、健全な学校運営がなされており特に問題ないと判断した。